



第5回講座テーマ

しま唄の間こえる街、宮崎市波島の文化

講師 宮崎公立大学准教授 渡邊 英理

●発表要旨

宮崎にある波島という場所。波島とは、戦前より、「疎開」や「出稼ぎ」等、さまざまな理由で沖縄・奄美の人々に移り住み、沖縄・奄美からの「移民」たちが集住してできた「集落(シマ)」です。そのため、波島には「移動」によって媒介された複数の文化が形成されてもいます。

「本土」には、横浜の鶴見区、大阪の大正区、鹿児島島の三和町など、いくつもの「沖縄・奄美タウン」が存在しており、波島は、それらと「重なりあう経験」の中で考えることができます。本講座では、そうした他の「沖縄・奄美タウン」との「重なりあい」の中で、波島の街や文化を見つめ、同時に、そのユニークな固有性にも光をあててみたいと思います。

また、波島という街の来し方行く末に触れることから、グローバル化が進展する現在の地方における重要な課題——共生のための方法や、地域の共同性を再考するための手掛かりなどを、参加者とともに探っていければ、とも願っています。

●講師紹介

略 歴	熊本生まれ、鹿児島育ち（霧島市・鹿児島市）。 お茶の水女子大学卒業。出版社勤務等を経て、東京大学大学院へ進学。 中国・天津外国語大学外籍教授、国立大学法人三重大学客員准教授（天津師範大学との日中協同教育事業）等を経て、2012年4月より現職。 学術博士（東京大学大学院総合文化研究科）
専 門	近現代日本語文学、文化研究
主な著書・ 論文	1、『ナイトメア叢書 第二巻 幻想文学、近代の魔界へ』青弓社 2006年5月 論文「夢の言葉の現実性——崎山多美「孤島夢ドゥチュイムニ」」 2、論文「激情から路地へ——中上健次『十九歳の地区』『熊野集』『ユリイカ』」 2008年10月号 青土社 3、論文「中上健次『枯木灘』と江州音頭『国文学 解釈と鑑賞』」2008年4月号 至文堂
学会・社会 貢献活動など	・富士ゼロックス・小林節太郎基金 2008年度（第13回）研究助成プログラム「小林フェロシップ」研究助成 ・トヨタ財団「東アジアにおける新たな〈コモン〉とはなにか——「民主」と「主権」の概念をめぐる日中比較共同研究」研究助成（2011～2013年）における共同研究員